発行所
石川県保険医協会
〒920-0902　金沢市尾張町2丁目8番23号
太陽生命金沢ビル8階
☎(076)222-5373番 FAX(076)231-5156番
URL　http://ishikawahokeni.jp/
E-mail；ishikawa-hok@doc-net.or.jp
発行人　大平政樹
印刷所　ソノダ印刷株式会社
購読料　1年間 5,000円(〒共)
（※本紙の購読料は会費に含まれます）

石川保険医新聞

主な記事

2面　小児科医からの発信
3～5面　石川県・個別指導情報
6面　社会保障・税一体改革
7面　複眼的に思索する読書教室

今月の会員数／1,027人（医科726人・歯科301人）

シリーズ 原発・いのち・みらい その52

第15回シリーズ講演会

3・11からの私たちの歩み

理事　斉藤　典才（金沢市・外科）

梅雨入り後の貴重な快晴となった6月17日（日）、石川県教育会館第1会議室に50人の参加者を迎え、15回目の原発・いのち・みらいシリーズ講演会を開催した。

今回は講演を2部構成にし、前半に当協会「原発・いのち・みらいプロジェクト」メンバーである吉田均先生と種市靖行先生を講師にミニレクチャーを企画した。吉田先生からは、寿命が1カ月と短いヤマトシジミ（蝶）への東京電力福島第一原発事故の生物学的影響を証明した琉球大学の研究を紹介していただき、種市先生からは福島県で行われている県民健康調査における甲状腺がん多発の問題について、詳細に分かりやすく報告していただいた。

続いて、「いわきの初期被曝を追求するママの会」代表の千葉由美さんからは、事故後に直面した様々な問題と取り組みについてお話しいただいた。原発事故が起きなければ普通に子育てをするママだったであろう千葉さん。事故後、放射線被ばくを受けた後も低線量被ばくの危険に晒され、子どもたちを何とか守ろうと奮闘されてきた。

福島県は2014年ごろから、政策的に地元産の食材を学校給食に使用することを決め、多くの親がそれを受け入れた。千葉さんは子どもに弁当を持たせることにしたが、弁当持参にも関わらず配食当番をしなければならなかったという子どもの心の葛藤はいかほどであったか、想像に難くない。

また、福島県には学校や保育園などの公共施設にモニタリングポスト（リアルタイム線量測定システム）が設置されているが、設置場所が子どもたちの活動範囲とは一致しておらず、知らずにホットスポットで遊んでいることもある。千葉さんたちは、目に見えない放射能汚染から子どもを守るためには汚染を可視化する必要があるとして、「TEAMママベク　子どもの環境守り隊」を立ち上げた。学校の体育館裏を測定すると、驚くほど高い線量を示すホットスポットを発見した。そのたびに行政に要望を出すことを繰り返し、状況改善の取り組みを重ねてきた。

なお、原子力規制委員会はこのモニタリングポストについて、避難指示区域に指定された自治体を除き、2018年度から順次撤去する方針を決めた。不十分ながらも放射線量がどの程度なのかをリアルタイムに知らせる重要なツールを撤去することは、住民の知る権利を奪う行為である。また、そもそも福島原発事故は東電や国の責任で起きたにも関わらず、住民の意思に関係なく撤去を決めることは住民の決定する権利をも奪うものである。

福島の人々が直面している問題を「フクシマの問題」に矮小化せず、広く「人権問題」として多くの人と共有したいと語った千葉さん。講演後は千葉さんと参加者の間で熱心な議論も行われ、有意義な会になった。今後も引き続きこのような市民公開講演会を企画していきたい。

ミニレクチャーを行った吉田均先生（上写真）と種市靖行先生（下写真）

講師の千葉由美さん

講師と参加者の熱心な議論が行われた（6月17日・石川県教育会館）

2018 年度版
病院マップ
7月10日発刊
医療連携に役立つ1冊!
☑ 県内病院の各科担当医師・連携窓口
☑ 外来診療時間・外来担当者
☑ 設備・特殊検査　などを掲載
○会　員：1冊　2,000円(税・送料込み)
○会員外：1冊　3,000円(税・送料込み)
※在庫が無くなり次第終了させていただきます。
ただいま 追加申し込み受付中!
会員の先生には1冊無料でお送りしました。
石川県保険医協会　医療福祉部
TEL 076-222-5373　FAX 076-231-5156

医心凡語

1954年頃より発症し、多くの人が言いしれぬ非業の死を遂げ、そして今も苦しむ患者がいる水俣病。強烈なメッセージを発する『苦海浄土』の発刊（1969年）から50年、今年の2月、作家の石牟礼道子氏が亡くなった▼米国の自動車産業と戦争した（1966年）ラルフ・ネーダー氏と似た匂いを『くすり公害』（1971年）の高橋晄正氏にも感じていた学生の頃、虫歯から子どもを守るために、新潟県弥彦村の小学校でフッ素洗口が始まり、「子供の歯を守る会」が新潟市に誕生した。活動の中心となった新潟大学予防歯科教室は、マスコミや婦人団体などから激しい反対を受けた。有吉佐和子氏の『複合汚染』が流行する時代とは言え、高橋晄正氏までも反対派の論陣の先頭に立つ始末▼しかし、教室の先輩諸氏は地道に一つ一つ反対派の理屈を論破しつづけた。つらい時期が続いたが、不合理はいつか消え、フッ素洗口法は多くの地域で実施され、絶大な効果をもたらした▼フッ化物洗口の実施に向け、本年1月新潟大学から講師が金沢市に招聘され、行政と歯科医師会が協働しながら歩み始めたと聞く。半世紀前とは隔世の感がある。「途中で挫折しないで良かった」と苦笑した仲間の顔が思い出される。『苦海浄土』と同じく、良いものは残るのだ。